

令和 2・3 年度

神奈川県認知症施策活動事例集

～認知症地域支援推進員の活動支援のために～

神 奈 川 県





令和3年度





はじめに

超高齢社会が到来し、認知症の人の数の増加がさらに見込まれる中、第8期の「かながわ高齢者保健福祉計画」（令和3年度～令和5年度）がスタートしました。

「認知症とともに生きる社会づくり」を柱の1つとし、国の「認知症施策推進大綱」を踏まえ、誰もが認知症になりうることを意識し、認知症の人が自ら認知症理解のために発信する「本人発信」への支援など、誰もがともに生きる、共生の基盤のもと、認知症施策を進めることとしています。

今年度も、新型コロナウイルス感染症が収束しない中での認知症地域推進員の皆様の活動となっていますが、高齢者の外出自粛などの影響による認知機能の低下、認知症の症状の悪化といった報告もされてきており、こうしたときだからこそ、皆様の取組が一層求められているともいえます。

推進員研修もオンラインでの実施となりましたが、各市町村では、オンラインによる研修の実施、リモート認知症カフェの支援や体操動画の配信のほか、アルツハイマーデーイベントを密にならないような方法で実施するなど、創意工夫した様々な取組が実施されました。

これまで県では、平成27年度から推進員研修を開始するとともに、活動の参考としていただけるよう、県内市町村や県保健福祉事務所・センターにおける取組をまとめた事例集を作成してきましたが、今回の事例集でも昨年度に引き続き、コロナ禍で工夫して取り組まれた事例などもまとめて掲載しております。

お忙しい中、原稿作成にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げますとともに、好事例等、実際の取組を参考にいただき、各地域で、新しい生活様式のもと、さらなる認知症施策の推進に活用していただきますようお願いします。

令和4年2月 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

かながわキンタロウと
神奈川県認知症の人と家族を支えるマーク



利用にあたって

- (1) 相談窓口等情報は、令和3年度に把握した情報をまとめたものです。
- (2) この事例集は、神奈川県高齢福祉課のホームページでダウンロードすることができます。
- (3) お気づきの点がありましたら、下記まで御連絡ください。

連絡先 〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1
神奈川県福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課高齢福祉グループ
電 話 045-210-4846 (直通)
F A X 045-210-8874
メール anshinkaigo@pref.kanagawa.lg.jp



～目 次～

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 特集 | 1～3ページ |
| 2 各市町村における認知症の取組 | 4～37 ページ |
| 3 各保健福祉事務所・センターにおける認知症の取組 | 38～43 ページ |
| 4 認知症地域支援推進員研修及び県内配置状況 | 44 ページ |
| 5 お電話ください認知症のあれこれ | 45 ページ～48 ページ |



1 特集

県で実施している、新たな認知症施策の取組について、2つご紹介いたします。

(1) かながわオレンジ大使について 2 ページ

(2) チームオレンジ・オレンジパートナーについて 3 ページ



認知症の当事者が発信 16 名がかながわオレンジ大使に！

多くの県民の皆様へ、認知症について理解していただくため、県では、認知症の方ご本人が思いを直接伝え、その人らしい活動を発信する「かながわオレンジ大使」（認知症本人大使）を令和3年4月に創設、16名の方に委嘱しました。

神奈川らしい大使のあり方を、認知症ご本人やご家族と話し合った結果、人数を定めず公募によることとし、ご本人の希望や体調に合わせ、参加・協力が可能な活動を行っていただくこととしています。

現在、市町村等からの依頼による講演活動や研修会の講師、認知症に関する会議への参加、テレビやラジオ出演、大使の作品展示等など、様々な発信を行っています。

まだコロナ禍の制約はありますが、さらにその人らしい活動を発信していきます。

大使からのメッセージや活動の様子



活動内容は大使の皆さんによる企画運営会議で話し合いながら決定しています。

（12月までにオンラインで3回、集合で1回開催）

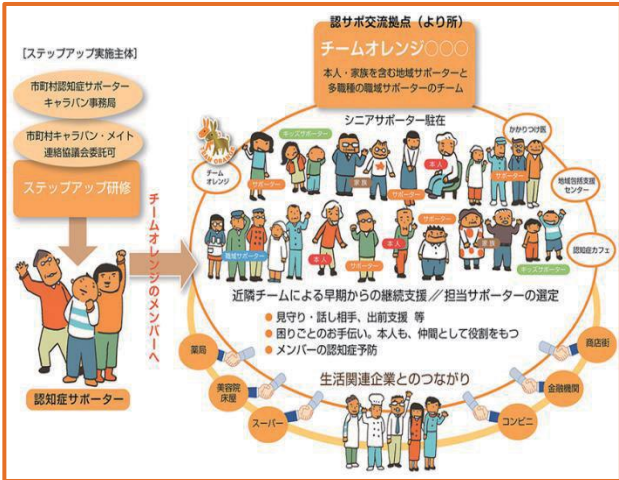
かながわオレンジ大使 検索

“チームオレンジ・オレンジパートナーについて”

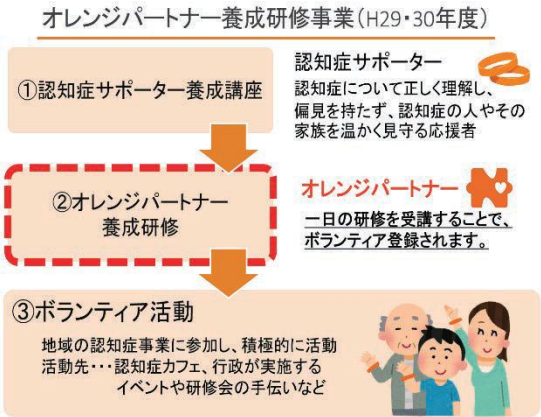
チームオレンジについて

認知症サポーターから一歩進んで、それぞれの地域でボランティア活動を行うサポーターが誕生しています。

認知症の人や家族の支援ニーズと、こうした認知症サポーターを中心とした支援をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの活動が「チームオレンジ」です。



オレンジパートナーとオレンジパートナーネットワーク



業等が「オレンジパートナーネットワーク」を形成し、市町村の枠を越えたボランティア活動を行ったり、相互連携のため、専用のサイトなどを通じて情報交換、情報共有、情報発信を進めていくことで、各地域における取組をさらに促進していきます。

県では、国のチームオレンジに先行する形で、H29、30年度の2年間のモデル事業として、オレンジパートナー養成研修を実施し1,062名を養成しました。

認知症サポーターがオレンジパートナー養成研修を受け、認知症カフェ、行政が実施するイベントや研修会のお手伝い等を行っています。

オレンジパートナー、支援団体、行政、企



県の取組

チームオレンジコーディネーター等研修

オレンジパートナーネットワーク連絡会議

24 日実施、第2回：3月実施予定

オレンジパートナー等の活動支援

信やマッチングなど、(公社)認知症の人と家族の会 神奈川県支部を事務局として活動を支援

オレンジパートナーネットワークサイト運営

実させるため、ウェブサイト運営

第1回：10月18日実施、第2回：3月実施予定

第1回：（県西部）7月28日（県東部）11月



1 各市町村における認知症の取組

神奈川県内 33 市町村では、地域特性に合わせて様々な認知症についての取組を実践しています。

次のページから各市町村の情報と実践、課題、主な取組や今後の取組等を掲載していますので、「推進員」の活動を展開していくための参考にしてください。担当課や連絡先も記載してありますので、「もっと知りたい！もっと聞きたい！」場合は、アクセスしてみてください。

- *市町村の番号は建制順となっています。
- *地域包括支援センターは、「地域包括」として記載しています。
- *認知症地域支援推進員は、「推進員」として記載しています。
- *キャラバン・メイトは、「メイト」と記載しています。
- *認知症サポーターは、「サポーター」と記載しています。



市町村名	テーマ
横浜市	認知症の人やその家族が地域の中で自分らしく暮らし続けられるよう、認知症に関する正しい理解の普及を進め、認知症への社会の理解を深める

【自治体の情報】

人口（令和３年９月３０日現在）	3,758,333
65歳以上人口（高齢化率）	930,850（24.8％）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	486,325（52.2％）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成24年度から 人数：1 職種：社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：18チーム 設置場所：認知症疾患医療センター
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成4年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成28年度作成 名称：オレンジガイド 活用方法：区、地域包括等へ配布。相談や研修会等で活用
認知症カフェの開設	令和・平成27年度から開設 カフェ数：92（HP掲載）
認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズ教室を一部の区、地域包括で実施。その他介護予防教室で実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

正しい知識・理解の普及

- ・メイト養成研修・フォローアップ研修・交流会の開催。サポーター養成講座の開催。
- ・メイトの活動支援や若い世代へ啓発を進めるためLINEアプリを市と関係機関2者協働でリリース。メイト交流会や連絡会等で周知。
- ・ケアパスの更新（予防を追加、また認知症の人が状態に応じて利用できる社会資源やサービス等を見やすく整理）

予防・社会参加

- ・認知症カフェの啓発（リーフレットを作成し、区、ケアプラザ、関係機関等へ配布し周知）
- ・認知症カフェ運営者向け交流会の開催。
- ・居場所の拡充（認知症カフェの立ち上げについて、関係機関と検討中）

認知症に理解のある共生社会の実現。若年性認知症の人への支援。

- ・若年性認知症支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築。若年性認知症の人や家族が集える場の充実。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・メイトの活動支援として「オンラインサポーター養成講座開催のコツ」について、フォローアップ研修で行った。

担当課名：健康福祉局高齢在宅支援課	電話：045-671-4129
	メール：kf-zaitakude@city.yokohama.jp

市町村名	テーマ
川崎市	認知症のひととみんながつながる取組み

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	1,523,311
65歳以上人口（高齢化率）	306,115（20.1%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	155,109（50.7%）
認知症地域支援推進員の配置	平成24年度から 人数：1 職種：介護福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：7チーム 設置場所：各区区役所
認知症サポーターステップアップ研修の実施	フォローアップ研修として、平成25年度から実施（昨年、今年度は無）
ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：認知症アクションガイドブック 活用方法：認知症の普及啓発と予防（備え）、本人・家族・友達と認知症について考え、活動するきっかけづくり
認知症カフェの開設	カフェ数：81（休止中35）8月末現在
認知症予防の取組	取組内容：タブレットを使ったMCIスクリーニング検査の実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

川崎市：○「認知症のひととみんなのつながるフェア」初めて認知症に特化した催事を9月に行う予定だったが、新型コロナ感染拡大の影響で中止となり、認知症に関するパネル展示等にて普及啓発を行った。

○「アタマとカラダの健康イベント」、昨年度から市内在住60歳以上の方を対象に23カ所の会場で、MCIの講演・スクリーニング検査・頭と身体を使った予防運動をイベント形式で実施した。

○市立図書館（各区）で、世界アルツハイマーデーに合わせて「認知症特設コーナー」を設置。職員もサポーター養成講座を受講し、認知症の方が利用しやすいような図書館機能を工夫している。

川崎区：世界アルツハイマーデーに合わせて、区内3カ所を巡回しパネル展示を行い、普及啓発を行った。

麻生区：「あさおオレンジプロジェクト」、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるよう取組みをしている。今年度は、日常生活に関わる事業者へのヒアリングを行い、サポーター養成講座のその後や認知症の人への対応、配慮などを聴き取り、映像に残し講演会やHPで公開予定。

また、世界アルツハイマーデーに合わせて区庁舎ロビーにてパネル展示をした。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○サポーター養成講座のリモート開催。

○メイト総会および、メイト養成研修を会場とオンラインでの同時開催。

○認知症カフェの中でも、オンラインで開催しているところが増えている。

担当課名：地域包括ケア推進室	電話：044-200-0207
	メール：40keasui@city.kawasaki.jp

市町村名	テーマ
相模原市	認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	725,733
65歳以上人口（高齢化率）	187,231（25.8%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	94,917（50.7%）
認知症地域支援推進員の配置	令和（平成）24年度から 人数：36（令和３年から各地域包括、高齢・障害者相談課、津久井保健福祉課に推進員を配置した） 職種：保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、看護師、主任ケアマネ
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：自治体
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 ５年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 28年度作成 名称：もの忘れ安心ガイドブック 活用方法：相談初期の説明用に使用
認知症カフェの開設	令和・平成 25年度から開設 カフェ数：39
認知症予防の取組	取組内容：各地域包括にて、毎年目標を立てて実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○認知症初期集中支援チームの運営 ○もの忘れ安心ガイドブック（認知症ケアパス）の普及 ○支え手帳（認知症地域連携パス）の普及 ○サポーター養成講座の実施 ○認知症カフェ開設等の支援 ○ケース検討会会議等への出席 ○若年性認知症の人と家族の交流会開催 ○認知症医療介護連携研修 ○運転免許を失った高齢者への支援 ○情報交換会の実施：各区で、推進員が集まり情報交換を行っている ○研修会の実施：推進員の質の向上のため、年１～２回実施 ○職員向けのサポーター養成研修実施
--

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

オンラインを活用した事業実施 ○認知症カフェ ○アルツハイマーデー普及啓発事業	○メイト連絡会 ○各種会議等
--	------------------------------

担当課名：地域包括ケア推進課	電話：042-769-9250
	メール： zaitakuiro-kaigo@city.sagamihara.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
横須賀市	地域で支え合い、住み慣れたまちで暮らせるために

【自治体の情報】

人口（令和 3 年 10 月 1 日現在）	394,226
65 歳以上人口（高齢化率）	126,357（32.1%）
75 歳以上人口（高齢者に占める割合）	67,873（53.7%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・ 平成 26 年度から 人数：1 職種：社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：4 設置場所：認知症疾患医療センター、医療機関、市役所
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和 ・平成元年度から実施 / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・ 平成 27 年度作成 名称：横須賀にこっとパス 活用方法：医療機関、民生委員、行政窓口などに配架
認知症カフェの開設	令和・ 平成 27 年度から開設 カフェ数：18（直営なし）
認知症予防の取組	取組内容：・認知症予防教室 ・脳の健康度チェック（ファイブコグ）

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- (1) 認知症予防の推進
- ① 早期発見（認知症機能評価ファイブコグ、もの忘れ相談会）
 - ② 認知症予防（認知症予防講演会、認知症予防教室の開催）
- (2) 認知症高齢者・介護者の支援の充実
- ① 認知症初期集中支援事業の実施
 - ・緊急事態宣言中は、チーム員会議、認知症高齢者等支援連携会議はオンライン開催とした。
 - ・チームの訪問は、電話で様子確認できる場合は、それも「可」とした。
 - ② 横須賀にこっとSOSネットワークの周知
 - ③ 認知症の各種相談・支援の実施

（認知症相談窓口設置、認知症ケアパス（にこっとパス）や認知症情報小冊子の発刊、認知症高齢者介護者のつどい、多職種セミナー開催）
- (3) 認知症共生社会に向けた地域づくりの推進
- ① サポーター養成、② オレンジパートナー（ステップアップ研修）養成、
 - ③ チームオレンジの構築、④ 認知症カフェ支援、⑤ 「よこすかオレンジLINE」を活用した地域づくり（認知症行方不明者捜索、認知症コラム配信等）
- (4) 若年性認知症の支援、社会参加支援
- ① 若年性認知症の理解のための啓発、② 本人発信の支援、③ 若年性認知症支援コーディネーターとの連携、④ 若年性認知症のつどい開催

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- Zoom によるリモートキャラバンメイト連絡会の開催
- 養成講座、つどい等で会場の収容人数を制限および予約制で実施

担当課名：健康長寿課	電話：046-822-8135
	メール：chcenter-hw@city.yokosuka.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
平塚市	推進員中心に認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして事業展開

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	256,441
65歳以上人口（高齢化率）	73,152（28.5%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	37,309（51.0%）
認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から1人、28年度から13人（計14人） 職種：保健師、看護師、社会福祉士、主任ケアマネ、 介護福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：市内医療機関
認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成27年度から実施
ケアパスの作成・活用方法	平成27、30年度作成 名称：知ってあんしん ひらつか認知症ガイドブック Vol.2 活用方法：相談業務やステップアップ研修等で活用
認知症カフェの開設	平成30年度から開設 カフェ数： 9
認知症予防の取組	取組内容：予防教室（コグニ体験）、脳いきいき講座、 脳とからだの体操リーダー養成講座を実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

◎レビー小体型認知症幻視・原画展
◎幻視・原画展開催特別講演会
（本人、認知症カフェ運営団体：
SHIGETAハウスプロジェクト、
チームオレンジ、推進員の御協力）



【レビー小体型認知症幻視・原画展および講演会の様子】

◎サポーター養成・ステップアップ講座
◎脳とからだの体操リーダー養成講座 ◎認知機能検査・フォローアップ講座 ◎認知症カフェ
◎アルツハイマー月間パネル展・駅南噴水オレンジ色ライトアップ ◎認知症カフェ団体交流会
◎認知症図書コーナー期間限定設置・ブックリスト作成 ◎VR 認知症体験会

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

◎散策&オンラインカフェ

散策の様子を公民館とオンラインで繋ぎ散策に参加できない方々にも季節を感じてもらいました。

◎農園カフェ

◎青空コグニサイズ

◎自宅でする！コグニサイズ DVD

配布・貸出

担当課名：地域包括ケア推進課	電 話： 0463-20-8210（直通）
	メール： keasui@city.hiratsuka.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
鎌倉市	地域で認知症支援体制を構築するための取組み

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	177,125
65歳以上人口（高齢化率）	53,891（30.4%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	31,125（57.8%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 29年度から 人数：10 職種：保健師、看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：10 設置場所：地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 3年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 30年度作成 名称：鎌倉市認知症ケアパス 活用方法：認知症サポーター養成講座、相談等で活用。
認知症カフェの開設	令和・平成 26年度から開設 カフェ数：7
認知症予防の取組	取組内容：地区健康教育でコグニサイズ等を活用

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- 1 認知症地域支援推進委員会の開催
推進員と共に認知症関連の事業について協議、情報共有を行っている。神奈川県若年性認知症支援コーディネーターを講師に迎え、研修を行った。
- 2 サポーター養成講座
地域包括と連携し、市内の小・中学生等を対象にサポーター養成講座を実施した。
- 3 認知症の普及・啓発
世界アルツハイマー月間に啓発活動として「オレンジ色を身につけ認知症への理解を深めよう」を実施。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・世界アルツハイマー月間に、イベントの代わりに、個々で「オレンジ色を身につけ認知症への理解を深めよう」という啓発活動を、近隣市である横須賀市・逗子市・三浦市・葉山町とともに行った。
- ・サポーター養成講座を、感染対策を徹底し、収容人数の50%以下で開催。

担当課名：介護保険課 (市民健康課)	電話：0467-61-3977 メール：h-kourei@city.kamakura.kanagawa.jp
-----------------------	---

市町村名	テーマ
藤沢市	認知症になっても安心して暮らせるまちふじさわ

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	441,832
65歳以上人口（高齢化率）	107,754（24.4%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	56,743（52.7%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27年度から 人数：2人職種：介護福祉士・社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数： 1 設置場所：藤沢市高齢者支援課
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 27年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成27年度作成 名称：知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス） 活用方法：市内医療機関や歯科医院、介護支援事業所へ配布、サポーター養成講座にて配布、市民センター、福祉窓口などに設置
認知症カフェの開設	令和・平成 29年度から開設 カフェ数：12
認知症予防の取組	取組内容：認知症予防教室、コグニサイズの普及

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

① ケアパス周知

- ・関係機関だけでなく、市内医療機関約800か所にも配布。

② 認知症普及啓発月間「おれんじキャンペーンふじさわ2021」の取組み

- ・市役所本庁舎でのパネル展とリーフレットの配架



- ・江の島シーキャンドルライトアップ
- ・市職員によるオレンジ色アイテム着用による啓発活動



- ・市内大型書店5店舗と4図書館での認知症ブックフェア開催



③ 認知症本人ミーティング開催



④ おれんじサポーター（サポーター養成講座上級講座修了生）活動

- ・交流会の実施（チームオレンジ、今後の活動について）
- ・介護体験談や家族の思いについてのショート動画撮影



⑤ 片瀬地区「あなたの人生会議」にて認知症普及啓発ブース出展

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○オンライン認知症サポーター養成講座（R4.1月予定）

○「ALL 藤沢合同ミーティング（地域の認知症に関する様々な取組みを紹介）」のハイブリット開催。（R4.2月開催予定）

担当課名：藤沢市高齢者支援課	電話：0466-50-3523
	メール：fj-kourei-s@city.fujisawa.lg.jp

市町村名	テーマ
小田原市	メイトを中心とした認知症カフェの取組

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	188,957
65歳以上人口（高齢化率）	57,346（30.3%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	29,815（52.0%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27年度から 人数：2 職種：社会福祉士、保健師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：12 設置場所：地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 25年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 30年度作成 名称：にんちしょうケアパス おだわら 活用方法：サポーター養成講座で配布
認知症カフェの開設	令和・平成 2年度から開設 カフェ数：4
認知症予防の取組	取組内容：短期集中事業の実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

メイト連絡会にて、令和3年度はメイトを中心とした認知症カフェを新規に立ち上げることが決定した。認知症カフェに協力してくれるメイトの団体メンバーを募集し、小田原市認知症カフェ運営費補助金を申請した。情報提供や学び、居場所を目的とした認知症カフェを開催した。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・認知症をにんちしょう会では、集合型のイベント開催ができないため、動画配信を行った。
- ・一市三町若年性認知症を考える会では、フレンドシップカフェを2回、オンライン開催した。
- ・おだわら・はこね家族会では、オンライン開催や、ハイブリッド開催をした。

担当課名：高齢介護課	電話：0465-33-1864
	メール：ko-hokatsu@city.odawara.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
茅ヶ崎市	新オレンジプラン及び認知症施策推進大綱で示された視点を重視しながら従来の取り組みを継続し、認知症の予防に努めるとともに、認知症となっても地域で生活できるような支援体制整備に努め、周囲の方々の理解が得られるよう周知促進を図る。

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	245,419
65歳以上人口（高齢化率）	65,211（26.6％）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	34,641（53.1％）
認知症地域支援推進員の配置	平成 29 年度から 人数：1 職種：保健師（29 年度～週 5 日、31 年度～週 3 日）
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市役所
認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成 23 年度から実施、27 年度から毎年実施している。（令和２年度は未実施）
ケアパスの作成・活用方法	平成 29 年度作成、令和 2 年、4 年改訂予定 名称：茅ヶ崎市認知症あんしんガイド 活用方法：関係機関、公共施設への配架による周知、サポーター養成講座時配布、窓口相談での活用等
認知症カフェの開設	令和 2 年度から市実施の開設を予定していたがコロナ禍により未実施、継続の有無について検討中。他団体主催のカフェは市内 5 か所 カフェ数：5 か所
認知症予防の取組	取組内容：コロナ対策通信紙「介護通信」に脳トレの記事掲載し周知 コグニサイズ教室の実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

実施事業：認知症施策検討会、認知症初期集中支援事業、認知症ケアパス「茅ヶ崎市認知症あんしんガイド」の周知と活用、企業や学校からの依頼や新規委嘱の民生委員児童委員対象認知症サポーター養成講座、SOSネットワーク事業、茅ヶ崎市版エンディングノート「わたしの覚え書き～希望のわだち～」の周知と配布と「書き方講座」、世界アルツハイマーデー及びアルツハイマー月間における広報紙への記事掲載と JCOM への放送、本庁舎設置のデジタルサイネージ活用により、「あんしんガイド」と「SOS ネットワーク」の周知を図った。他にキャラバン・メイト管理、家族等からの相談等への対応、電話相談や訪問の実施等。第 3 回ちがさきオレンジ Day、ステップアップ講座、市民対象サポーター養成講座は今後実施予定。

未実施事業：認知症カフェ、地域サロンへの参加は、緊急事態宣言期間も含め、感染防止のための三密を防ぐことが難しいと判断し中止。市主催の認知症カフェの実施は再検討中。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・感染防止に努めつつ認知症施策検討会と認知症初期集中支援チーム員会議の早期開催により認知症の方とその家族、及び介護者の不安軽減とサービス導入に向けた助言を得る機会を確保した。
- ・「ちがさきオレンジ Day」イベントに Zoom 等のオンライン導入を検討・計画した。

担当課名：高齢福祉介護課	電話： 0467-82-1111
	メール： koureikaigo@city.chigasaki.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
逗子市	—

人口（令和３年１０月１日現在）	595,28
65 歳以上人口（高齢化率）	185,98 (31.2%)
75 歳以上人口（高齢者に占める割合）	107,81 (58.0%)
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27 年度から 4 人 職種：保健師・看護師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市役所
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 3 年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 29 年度作成 名称：逗子市認知症ケアパス 活用方法：医療機関・地域包括相談時配布 図書館配架
認知症カフェの開設	令和・平成 28 年度から開設 カフェ数：2
認知症予防の取組	取組内容：各地域包括の担当地域への啓発活動

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- ・初期集中支援チーム員会議の開催。
- ・各地域包括が行うサポーター養成研修開催支援

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・ZOOM 利用によるオレンジ・カフェ開催

担当課名：社会福祉課	電話：046-873-1111（内）213
	メール：houkatsu@city.zushi.lg.jp

市町村名	テーマ
三浦市	高齢者が多い市だからこそ頑張りたい認知症施策

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	41,928
65歳以上人口（高齢化率）	16,735（39.9%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	8,776（52.4%）
認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：4 職種：看護師、社会福祉士、介護支援専門員
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和4年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	平成30年度作成 名称：三浦市認知症ガイド 活用方法：認知症の相談窓口や専門の医療機関を紹介する際に活用している。
認知症カフェの開設	令和元年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：サロンにおけるコグニサイズや講話

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○認知症等行方不明高齢者 SOS ネットワーク事業を市ホームページや介護事業所等に周知し、登録者には見守りシールを配布している。

○認知症ケアパスを市内各医療機関、公共施設等に配架し、認知症の相談窓口や、認知症の症状に沿ったサービスが分かるようにしている。

○推進員が認知症初期集中支援チームの対象者を見つけ、チームの支援に繋げている。

○推進員が中心となり、サポーター養成講座を開催している。

○認知症のママが営んでいる喫茶店で毎月認知症カフェを開催し、ママが煎れる本格コーヒーを飲みながら、ピアノ演奏を聞いたり、ママと会話を楽しむなど地域の交流の場となっている。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○キャラバンメイト連絡会は対面ではなく、メールによる紙面会議とした。

○サポーター養成講座は少人数で開催をし、会場内のマスク着用を徹底した。

担当課名：高齢介護課	電話：046-882-1111（内線 352）
	メール：hoken0201@city.miura.lg.jp

市町村名	テーマ
秦野市	認知症を支えるまちに ～世界アルツハイマー月間での普及啓発～

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	160,011
65歳以上人口（高齢化率）	49,324（30.8%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	23,765（48.2%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27年度から 人数：9 職種：保健師 看護師 社会福祉士 介護福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所： 高齢介護課
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 29年度から実施
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 27年度作成 名称：秦野市認知症ガイドブック 活用方法：窓口配架 講座での配付 ダイジェスト版を作製し、市内の商店等に配置し、市民に広く周知している。
認知症カフェの開設	令和・平成 27年度から開設 カフェ数：23
認知症予防の取組	取組内容：教えて先生！MC Iと認知症予防（専門医による講演）、コグニサイズ教室、iPadによる脳の健康チェック、脳の健康教室（KUMON学習療法）、いきいきライフ交流会（脳の健康教室OB会）

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

認知症に関する普及啓発活動として、高齢介護課の窓口や図書館、公民館、施設、薬局、洋品店等、計23か所で世界アルツハイマー月間の特設ブースを設けました。

「ロバが可愛く、明るく温かい展示で分かりやすい。」
「認知症を知るための推薦図書を参考にします。」「勉強になりました。」等の感想が寄せられました。



【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

新型コロナウイルス感染症拡大の中でしたが、認知症介護者の集いを対面で開催しました。広い会場を設定し、換気を徹底、参加者同士は十分な距離を取り感染症対策を行いました。「一人で大変大変と思っていましたが、まだ頑張れると気づきました。」「勇気がわきました。」「参加できて良かったです。」等の感想があり、コロナ禍においても集いの必要性を感じました。

担当課名：高齢介護課	電話：0463-82-7394
	メール：kourei@city.hadano.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
厚木市	普及啓発イベントへの取組みについて

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	223,644
65歳以上人口（高齢化率）	58,367（26.1%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	28,384（48.6%）
認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：12人 職種：看護師・保健師・介護支援専門員・社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：医療法人社団 青木末次郎記念会 相州病院
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和元年度（H31）から実施
ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：厚木市認知症ケアパス 活用方法：認知症関連事業等で配布
認知症カフェの開設	カフェ数：5
認知症予防の取組	取組内容：物忘れ予防・脳いきいき教室

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

●普及啓発イベント 【あつぎオレンジフェスタ2021】 ・パネル展示（相談窓口、行政サービス、推進員、初期集中支援チーム、家族会などの紹介） ・認知症関連図書館展示（認知症に関する本、資料の展示） ・オンラインサポーター養成講座 ・オンライン認知症関連映画上映会 ・デジタルサイネージによる周知 ・認知症予防特別メニュー（定食）の提供
--

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

集合開催が難しい事業に関しては、オンラインを活用して実施しました。
--

担当課名：地域包括ケア推進課	電話：046-225-2047
	メール：lg1910c@city.atsugi.lg.jp

市町村名	テーマ
大和市	認知症になってもあんしんやまと

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	242,534
65歳以上人口（高齢化率）	57,932（23.9%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	29,970（51.7%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成27年度から 人数：14人（現在） 職種：保健師、看護師、社会福祉士、主任介護支援要員等
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市役所
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成29年度から実施
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成28年度作成 名称：認知症になっても安心やまと 活用方法：相談窓口、事業周知等で活用、公共施設等で配布
認知症カフェの開設	令和・平成27年度から開設 カフェ数：15
認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズセミナー コグニバイクの設置等

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○認知症地域支援推進員を「認知症コンシェルジュ」と呼称し、推進員活動を行っている。 ○推進員は、地域包括の担当エリアごとに地域課題に取り組むことに加え、市全体として取組を行う課題別の部会（３部会）を設置し、部会活動を行っている。 ① 認知症の人の声を聴く部会：若年性認知症本人ミーティング及び、認知症の本人とのワークショップ（意見交換会）を開催。 ② 認知症サポーターの活動を考える部会：チームオレンジ設置に向けた準備、検討、ステップアップ講座について内容を検討した。 ③ 認知症多職種協働研修部会：２回開催を予定。１回目は認知症サポート医による講義。２回目は理学療法士、作業療法士を講師に迎えて認知症とリハビリテーションについて研修を計画中。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○認知症予防コグニサイズセミナー等の講座では、密を避けるため「コグニパック」の紹介や自宅で運動が継続できるような資料を講師が作成し配布。 ○公認心理師による個別相談では、コロナ禍においても認知症介護で介護に行き詰る家族の負担を軽減するため、対面での実施以外にオンラインでも実施した。

担当課名：人生100年推進課	電話：046-260-5612
	メール：ke_jinse@city.yamato.lg.jp

市町村名	テーマ
伊勢原市	認知症に対する正しい知識と理解への普及啓発

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	99,919
65歳以上人口（高齢化率）	26,714（26.7%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	13,658（51.1%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27年度から 人数：7人 職種：保健師、看護師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：医療機関
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 2年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 28年度作成 名称：知ってあんしん認知症ガイドブック 活用方法：相談時や認知症に関する講座・医療機関等に配架し地域住民へ配架を実施。市HPより閲覧も可能。
認知症カフェの開設	令和・平成 29年度から開設 カフェ数：6
認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズの普及、認知機能検査とコグニサイズ等教室実施、認知症VR体験等や認知症の人とともに暮らす共生社会を考える講座他

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- 伊勢原版オレンジパートナー活動支援として、認知症の人の思いを聴くため、本人インタビュー動画を作成し、認知症サポーターステップアップ研修等で活用し啓発普及に努めた。
- 「認知症の人とともに歩むいせはら」の登り旗を作成。イベント時などで使用し認知症の普及啓発をおこなった。



推進員と登り旗



散歩カフェ



親子向け認知症サポーター養成講座



本人インタビュー動画

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・ハイブリッド型オンラインカフェや散歩など、従来の認知症カフェの形態を変えながら参加者の交流を継続している。インスタントシニア体験では直接手に触れるものを使い捨てにするなど工夫した。

担当課名：介護高齢課	電話：0463-94-4725（直通）
	メール：kaigo@isehara-city.jp

市町村名	テーマ
海老名市	「認知症の人とその家族に優しいまちえびな」

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	136,776
65歳以上人口（高齢化率）	33,949（24.8%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	16,957（49.9%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成28年度から 人数：9 職種：保健師・看護師・社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：えびな在宅医療相談室
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成元年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成28年度作成 名称：認知症ケアパス 活用方法：市、地域包括等や認知症関連事業で配布。
認知症カフェの開設	令和・平成28年度から開設 カフェ数：6

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○推進会議の開催（月1回）

○認知症初期集中支援チーム（チーム会議月1回開催）

○認知症の正しい理解と普及啓発活動

アルツハイマーデーのイベント実施（神奈川新聞と読売新聞に記事掲載、講演会（講師 となりのかいこ 川内 潤氏）、図書フェア（図書館と書店）、認知症予防ランチ（市内3飲食店）の提供、海老名駅間デジタルサイネージ、パネル展、ケアパスの配布等



○認知症サポーター養成講座とステップアップ講座の実施

認知症サポーター養成講座（市民、企業、図書館）とステップアップ講座を実施し、サポーターカードとオレンジリング、ケアパスを配布した。企業はリコー社員（オンライン）とJR東日本社員（対面）に実施

○オンライン介護座談会の実施（リコー社員） 認知症等の介護をしている社員を対象にオンラインで座談会を実施



【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○感染拡大防止対策を徹底し、認知症カフェ、サポーター養成講座、ステップアップ講座、認知症予防講演会を開催

○市ホームページにコグニサイズや自宅のできる介護予防等の動画、お役立ち情報などを掲載

担当課名：地域包括ケア推進課	電話： 046-235-4950
	メール： houkatsu@city.ebina.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
座間市	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	131,703
65歳以上人口（高齢化率）	34,119（25.9%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	17,239（50.5%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27年度から 人数：11 職種：保健師、看護師、社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：相模が丘地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 27年度作成 名称：座間市認知症ケアパス 活用方法：相談時利用、HP掲載、認知症関連講座で配付、関連機関での配付・配架
認知症カフェの開設	令和・平成 28年度から開設 カフェ数：3
認知症予防の取組	取組内容：講演会、コグニサイズ講習会、認知症予防教室

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○推進員連絡会の開催（偶数月） チーム員や他関連団体も参加し、推進員活動についての活動報告をもとに情報共有や意見交換を実施した。 ○アルツハイマーデーイベント 市、地域包括、社協、図書館で認知症に関する普及啓発を目的に実施。関連情報の展示やチラシ・パンフレットの配架の他、認知症の人や家族に向けてのメッセージツリーの作成。期間中は、市内オレンジパートナーが、会場設営や来場者対応等を行った。 ○サポーター養成講座の実施 通年開催の基礎講座に加え、応用編も実施。市内児童ホームへ出張講座と市の夏休みイベントを企画し、キッズサポーターの養成をした。
--

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

・推進員の連絡会を効率的に進められるように整えた。（意見の事前聴取や資料の事前配付等） ・サポーター養成講座や認知症予防教室、講演会等は、実施方法を工夫して開催が継続できるようにした。 ・リモート開催を試みている市内カフェへの支援を行った。 ・オレンジパートナーは、感染症予防を継続しながら、人数や活動内容を調整し活動を継続した。
--

担当課名：介護保険課	電話：046-252-7084
	メール：kourei@city.zama.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
南足柄市	認知症の方も家族の方も安心してつどえる場づくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	41,334
65歳以上人口（高齢化率）	13,690（33.1%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	7,356（53.7%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 25年度から 人数：13 職種：主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師、 看護師、介護支援専門員
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：基幹型地域包括支援センター
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 28年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 29年度作成 名称 南足柄市認知症相談ガイドブック 活用方法：ホームページで掲載
認知症カフェの開設	令和・平成 27年度から開設 カフェ数：2
認知症予防の取組	取組内容：脳の健康教室、脳トレ教室（コグニサイズ）

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

認知症家族のつどいは神奈川県認知症地域支援体制構築等推進事業のモデル自治体として平成22年度から開始した。認知症の方を介護している家族同士が気持ちを語り合い、情報交換ができるよう、介護を卒業された経験者、認知症サポーター、市内の認知症対応型介護サービス事業所のスタッフ、社協職員、推進員、地域包括職員が月に1回つどいを開催している。家族と別室では認知症のご本人も交流を図りつつ、時には思いを語り合い穏やかな時間を過ごしている。年間行事として日帰りバスハイクや医師を招いてのミニ講演会も行っている。

本人、家族、ボランティア、従事者と推進員が連携して「安心して過ごせる場所」が定期的で開催され、初めての人も気軽に参加し仲間づくりができるように心がけている。



【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○認知症家族のつどい

コロナ禍においては事前申し込み制とし、参加者にはマスクの着用、検温・手指消毒の徹底、喚起と参加者間の距離の確保を行って実施した。バスハイクは半日とし近隣の末病バレーの見学を実施した。

担当課名：高齢介護課	電話：0465-74-3196
	メール： tilkihokatushienn@city.minamishigara.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
綾瀬市	認知症の予防と共生のためのまちづくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	84,458
65歳以上人口（高齢化率）	23,200（27.5%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	12,166（52.4%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成27年度から 人数：5 職種：看護師、介護福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：市
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成29年度作成 名称：認知症ケアパス 活用方法：全戸配布の冊子に掲載して普及啓発を実施
認知症カフェの開設	令和・平成29年度から開設 カフェ数：4
認知症予防の取組	取組内容：コグニバイクの設置及び講習会の実施、複合型の介護予防事業で認知症予防プログラムを実施、コグニサイズ教室の実施、タブレットを利用した認知機能検査の実施、広報紙への認知症予防に関するコラムの掲載

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

【推進員活動】 75歳以上の一人暮らし高齢者に対し、生活状況確認のための戸別訪問を実施 認知症に関するコグニサイズなどの出前講座の実施 【サポーター養成講座】 若い世代に向けた認知症理解促進のため、学校でのサポーター養成講座の実施 【会議など】 認知症初期集中支援チーム員会議・推進員連絡会の実施 消費生活センターと包括の情報交換会を実施 【普及啓発】 全戸配布の冊子に、認知症ケアパスや認知症に関する相談先・事業を掲載 市広報紙へ認知症予防のコラムや、アルツハイマーデーの周知記事の掲載 【事業】 複合型の介護予防事業でコグニサイズなどの認知症予防プログラムを実施 タブレットを利用した認知機能検査の実施 コグニバイクの設置及び講習会の実施

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

【認知症地域支援推進員活動】 緊急事態宣言中には、75歳以上一人暮らし高齢者に対し、認知症などの相談先として、地域包括支援センターの周知や、介護予防の情報提供のチラシのポスティングを実施。 【会議など】 初期集中支援チーム員会議をオンライン実施
--

担当課名：地域包括ケア推進課	電話：0467-77-1116
	メール：wm.771116@city.ayase.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
葉山町	認知症になっても安心して暮らせるまち

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	32,896
65歳以上人口（高齢化率）	10,294（31.3%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	5,861（56.9%）
認知症地域支援推進員の配置	平成29年度から 人数：8 職種：保健師、看護師、介護支援専門員
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：町役場・地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	無
ケアパスの作成・活用方法	平成31年度作成 名称：知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス） 活用方法：相談時の説明に使用
認知症カフェの開設	平成27年度から開設 カフェ数：4
認知症予防の取組	取組内容：予防教室（コグニサイズ）の実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○ケアパスの普及・啓発 令和元年度に冊子化した「知ってあんしん認知症ガイドブック（認知症ケアパス）」を相談時の説明に活用。専門医療機関の受診勧奨をし、早期診断対応に努めている。 ○認知症カフェ コロナ禍で中止となることも多かったが、推進員を中心に運営及び支援協力することができた。 ○75歳以上の独居高齢者の訪問事業 コロナ禍でも訪問を継続し、推進員と連携しながら、早期に必要なサービスにつなげられるよう努めた。 ○認知症等行方不明 SOS ネットワークシステムの普及・啓発 窓口での相談時やケアマネに対してシステムを積極的に周知するとともに、警察と適宜連絡を取り合い、システムの普及啓発や活用に努めた。
--

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

・推進員が全員行政・包括との兼務であるため、元々活動に困難感があったが、今年度はワクチン接種対応が優先され、当初の回数を減らしたり、対象者を制限したりする中での事業展開となった。他市町村の取組を参考に、今後どのように事業を継続・展開して行くか、考える必要がある。
--

担当課名：福祉課	電話：046-876-1111 内線 234
	メール：kaigo-fukusi@town.hayama.lg.jp

市町村名	テーマ
寒川町	認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	48,999
65歳以上人口（高齢化率）	13,464（27.5%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	6,626（49.2%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成29年度から 人数：1人 職種：社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：町
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成30年度から実施 / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成28年度作成 名称：寒川町高齢者ガイド 活用方法：窓口で配布、ホームページで掲載、町内の医療機関、歯科医療機関、薬局に配架
認知症カフェの開設	令和・平成28年度から開設 カフェ数：3
認知症予防の取組	取組内容：介護予防事業

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- ・サポーター養成講座、ステップアップ講座の開催

個人や自治会を対象とした住民向けサポーター養成講座、介護施設職員むけのサポーター養成講座、住民向けステップアップ講座、ボランティア団体向けステップアップ講座の開催。

- ・ケアパスの普及・啓発

寒川町高齢者ガイドの役所窓口や地域包括窓口での配布、認定調査員による配布、町内の医療機関、歯科医療機関、薬局への配架をした。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・コロナ感染症対策に十分な配慮をし、こすもすカフェ（認知症カフェ）を再開した。

認知症カフェにさむかわ音楽ひろばの方が参加し、演奏してくれました。



担当課名：高齢介護課	電話：0467-74-1111
	メール：kourei@town.samukawa.lg.jp

市町村名	テーマ
大磯町	認知症を知り、身近に感じてもらえるまちづくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	32,478
65歳以上人口（高齢化率）	11,172（34.4%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	5,936（53.1%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成30年度から 人数：2 職種：保健師・社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括支援センター
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成30年度作成 名称：認知症ケアパス 活用方法：窓口配布、地域のつどい等で配布
認知症カフェの開設	令和・平成30年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：スクエアステップのひろば、予防教室

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- 図書館に協力依頼し認知症コーナーを設置。
9月の1か月間、図書館に認知症や介護に関する本と普及啓発の冊子やチラシを設置し、来館した多くの方に手に取ってもらえた。
- 認知症に関するチラシや冊子をまとめたミニコーナーを設置。（保健センター内）
- 健康相談などで地域に専門職が出向く「おあしす事業」で認知症の講話など普及啓発を行った。又、地区会館を保健師が回り認知症に関する話しや住民からの相談に応じ、必要な方は地域包括へつなげた。
- サポーター養成講座の実施。（地域の活動団体、金融機関、中学校）

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- スクエアステップのひろばや介護予防教室等町内や庁舎内で開かれる認知症関連の集会の際は、送風機を使い換気を良くし、教室に入る前に検温とアルコール消毒の徹底を行った。
- 緊急事態宣言の時は教室中止を開催日時より早く決め、中止のご案内と代替えになる日付を（予め用意していた予備日）設定し回数が減らない様に工夫した。

担当課名：福祉課	電話：0463-61-4100（代表）
	メール：kaigo@town.oiso.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
二宮町	自立で安心、地域でいきいきとふれあうまちづくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	28,195
65歳以上人口（高齢化率）	9,912(35.2%)
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	5,524(55.7%)
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 29年度から 人数：1 職種：社会福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：二宮町役場
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成4年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 30年度作成 名称：二宮町認知症ケアパス～認知症とともに暮らす道しるべ～ 活用方法：高齢者や介護者、関係機関へ配布
認知症カフェの開設	令和・平成 30年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：地域の通いの場で講座の実施等

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○認知症予防の推進

- ・認知症に関する正しい知識の普及

学校の授業の一環として町内の中学校で、また町職員全員にサポーター養成講座を実施。

今年度より、サポーター養成講座受講済みの方を対象に認知症サポーターのつどいを開催し、養成講座を受講後どのような活動ができるのかを話し合う場としている。

- ・認知症の予防（地域の通いの場で継続的な認知症予防の取り組みを実施）

○相談・支援体制の充実

- ・広報やホームページを通じて相談窓口の周知
- ・にのんカフェ（認知症カフェ）、サポーターのつどいを定期的実施
- ・『認知症サポーター』を広く周知することを目的として、サポーターがいることがわかるオリジナルのステッカーを作成。介護事業所や企業等へお配りし、認知症の人がいつまでも住みなれた地域で生活し安心して暮らせるまちづくりを推進している。



【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・にのんカフェ（認知症カフェ）に、オンラインで参加できるようにした。

担当課名：高齢介護課	電話：0463-75-9542
	メール：houkatsu@town.ninomiya.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
中井町	認知症を知り、理解を深めていただく活動を進める

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	9,115
65歳以上人口（高齢化率）	3,228（35.4%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	1,560（48.3%）
認知症地域支援推進員の配置	令和（平成）29年度から 人数：1 職種：介護福祉士
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：中井町（保健福祉センター）
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） /（無）
ケアパスの作成・活用方法	令和・（平成）30年度作成 名称：認知症ガイドブック 活用方法：相談、地域の集まりでの啓発等に使用
認知症カフェの開設	令和（平成）30年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：JG`サイ`教室、地域の集まり等で講話実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○サポーター養成講座 一般町民、町職員を対象に、また、新規の取り組みで町立小学校2校に出向いて実施した。 ○認知症カフェ事業 なかい里都まちC A F E等を会場とし、開催回数を年9回に増やして実施した（2回は中止）。 ○アルツハイマーデー・月間図書室と連携し、図書室の取り組みとして企画展示、図書室HPへの掲載、認知症に関する本のリスト作成・配布を行った。	
--	--

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

・サポーター養成講座、認知症カフェ等、感染対策を講じ、定員を減らして実施した。 ・認知症カフェの開催見合わせの際は、参加者へ電話訪問を行い、近況を伺った。ボランティアにも連絡をとり、情報交換を行った。

担当課名：健康課	電話：0465-81-5546
	メール：kenkou@town.nakai.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
大井町	認知症でも認知症でなくても助け合える・気軽に声を掛けられる大井町

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	17,314
65歳以上人口（高齢化率）	4,933（28.5%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,450（49.7%）
認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：3人（R2年度～） 職種：保健師3人
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 平成29年度から実施 設置場所：直営地域包括支援センター
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成28年度から実施 / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成30年度作成 名称：大井町認知症ガイドブック 活用方法：窓口・認知症カフェ・家族のつどいで配布、ホームページ掲載、町内医療機関・歯科医院・薬局に配架（閲覧・配布用）
認知症カフェの開設	令和・平成29年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：コグニサイズの実施（一般介護予防事業、介護予防・生活支援サービス事業）コグニサイズ自主グループへの支援、介護予防・生活支援サービス事業によるiPadを活用した認知機能評価・事業展開

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- ・オレンジカフェひだまり（月1回）認知症家族のつどい（2か月に1回）の開催
- ・認知症ガイドブックの更新と、町内医療機関・薬局への配布
- ・地域ケア会議内での「認知症」の方の事例検討
- ・窓口、電話での随時相談受付、県認知症担当者や認知症疾患医療センター・サポート医との連携
- ・小学生への授業（高齢者と認知症）実施と介護予防事業への高校生インターンシップの受け入れ
- ・職員向けサポーター養成講座の実施、ステップアップ講座の実施（予定）

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・オレンジカフェ：広い会場に設定し、換気とマスク着用を徹底し、休止せずに開催した。
- ・認知症家族のつどい：以前よりも参加者同士の距離をとり開催。コーヒーの提供を行ったが、会話時はマスクをするように徹底した。
- ・町民が必要最低限の外出の中で情報収集が行えるように医療機関・薬局でのガイドブックの配布と情報の必要そうな方への声掛けと配布を依頼した。
- ・カフェ参加のハードルを下げるため定期的に音楽鑑賞会を開催した。

担当課名：福祉課	電話：0465-83-8024
	メール：fukushi@town.oi.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
松田町	住民と協働で地域を支える取組の推進

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	10,756
65歳以上人口（高齢化率）	3,745（34.8%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	1,987（53.1%）
認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：2人（1名はR1～） 職種：社会福祉士・看護師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	平成28年度から実施（予定）有
ケアパスの作成・活用方法	平成31年度作成 名称：認知症になっても安心して暮らせるまちをめざして 活用方法：窓口相談時、認知症サポーター養成講座、介護保険事業所、医療機関等へ配布
認知症カフェの開設	平成29年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：認知症予防の自主グループにてコグニサイズ実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- 「MATSUDA おれんぢかふえ」をボランティア任意団体と協働実施。
新型コロナウイルス感染拡大中は、参加者に対して何が出来るかを任意団体のメンバーと話し合い、下記を実施した。
- 「MATSUDA おれんぢかふえ」をボランティア任意団体と開催。
新型コロナウイルス感染防止に留意し、場所を変更して開催した。
- 認知症初期集中支援チーム員会議開催
新型コロナウイルス感染が落ち着き始めた頃、認知症相談が増え、認知症サポート医と訪問し、会議を開催し、新型コロナウイルス禍でも参加できる事業につなぐことを積極的に行った。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- 認知症カフェの参加者へメッセージカード・写真をお届け！
「MATSUDA おれんぢかふえ」の共同実施団体に「MATSUDA おれんぢの会」のメンバーと考案し、かふえ中止中に会のメンバーから手紙を書いていただき、一人ずつホルダーに入れて、自宅に訪問しお渡しした。
⇒再開時、「とても嬉しかった」と涙を流して喜んでくださる方もおり、参加者の皆さんに、思いが届き、お互いにとても良い思い出になった。

担当課名：福祉課	電話： 0465-83-1226
	メール： kaigo@town.matsuda.lg.jp

市町村名	テーマ
山北町	チームオレンジの構築に向けたサポーター養成講座の実施

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	9,847
65歳以上人口（高齢化率）	4,033（41.0％）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,008（49.8％）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 28年度から 人数：1 職種：保健師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 4年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 30年度作成 名称：認知症ガイドブック 活用方法：全戸配付
認知症カフェの開設	令和・平成 元年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：介護予防教室で認知症アクティビティを実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○サポーター養成講座の実施

チームオレンジの構築に向けて、ボランティアの団体等へサポーター養成講座を実施している。

○認知症カフェの開催

令和元年度に認知症カフェを開設。令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により休止していたが、令和３年９月より再開。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

緊急事態宣言下では感染拡大リスクが大きいと考えカフェを中止したため、地域包括では個人の見守りを強化し閉じこもり傾向の強い方には通所型をすすめた。

担当課名：保険健康課	電話：0465-75-3642（直通）
	メール：hoken-kenko@town.yamakita.lg.jp

市町村名	テーマ
開成町	感染予防に気を付けながら、サロン活動を再開

【自治体の情報】

人口（令和 3 年 10 月 1 日現在）	18,338
65 歳以上人口（高齢化率）	4,547（24.8%）
75 歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,425（53.3%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27 年度から 人数：1 職種：主任ケアマネジャー
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：町
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 27 年度から隔年で実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 28 年度作成 名称：認知症ガイドブック 活用方法：希望者・サポーター養成講座等で配布
認知症カフェの開設	令和・平成 30 年度から開設 カフェ数：1
認知症予防の取組	取組内容：地域体操サロンでコグニサイズを実施。

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

令和 3 年 10 月～認知症カフェ（月 2 回）を再開。
 高校生を対象としたサポーター養成講座で認知症ボランティアによる寸劇を実施。
 令和 4 年 2 月頃、町民向けサポーター養成講座とステップアップ講座を実施予定。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

基本的な感染対策を徹底して実施しています。

担当課名：福祉介護課	電話： 0465-84-0316
	メール：fukushika@town.kaisei.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
箱根町	地域包括、推進員との連携による認知症カフェの開設

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	11,124
65歳以上人口（高齢化率）	4,237（38.1％）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	2,193（51.8％）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 29 年度から 人数：1 職種：介護支援専門員
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所： 地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 29 年度作成 名称： 認知症安心ガイド 活用方法： 行政機関窓口配架、相談初期の説明時に使用
認知症カフェの開設	令和・平成 3 年度から開設 カフェ数： 1
認知症予防の取組	取組内容：脳と体の若返り教室及びコグニサイズの普及

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

昨年度、認知症カフェを開設予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となってしまった。今年度、飲食等は禁止とするが、認知症介護についての情報提供や学びを目的とした認知症カフェを、地域包括、推進員と連携し開設する。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○ おだわら・はこね家族会、フレンドシップカフェ（若年性認知症家族会）のリモート実施
通常会場に足を運んで開催している家族の集いであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を予防するため Zoom を利用したリモートで実施した。

担当課名：福祉部福祉課	電話： 0460-85-7790（直通）
	メール： fukusi@town.hakone.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
真鶴町	地域で認知症の方を見守り・支えられる町づくり

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	7,007
65歳以上人口（高齢化率）	3,032（43.3%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	1,630（53.8%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 27年度から 人数：1 職種：保健師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：1
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 29年度作成 名称：認知症安心ガイド 活用方法：公共機関等配架
認知症カフェの開設	令和・平成 年度から開設 カフェ数：
認知症予防の取組	取組内容：

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

- ・世界アルツハイマー月間における普及啓発
9月の世界アルツハイマー月間中、役場内をオレンジ色に装飾、チラシ配架し、アルツハイマー月間において認知症を正しく理解することの大切さを普及啓発。
- ・お達者教室
コグニサイズを含めた認知症予防教室

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

- ・認知症をにんちしよう会
毎年行っている9月のイベントは動画配信や電話相談へ変更し実施
- ・一市三町若年性認知症を考える会
認知症カフェをオンライン開催

担当課名：健康長寿課	電話：0465-68-1131
	メール：ken_koreikaigo@town.manazuru.lg.jp

市町村名	テーマ
湯河原町	認知症の方とその家族を支える地域づくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	24,199
65歳以上人口（高齢化率）	10,179（42.1％）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	5,608（55.1％）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成 3年度から 人数：6 職種：看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援専門員
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1 設置場所：地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 4年度から実施（予定） / 無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成 元年度作成 名称：認知症安心ガイド（ケアパス） 活用方法：窓口や行事、医療機関へ配布
認知症カフェの開設	令和・平成 年度から開設 カフェ数：0
認知症予防の取組	取組内容：iPadを使った脳若トレーニングの実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○認知症初期集中支援チーム ・一市三町広域で合同開催。書面会議により支援内容を検討している。 ○ゆがわら・まなづる家族会 ・認知症介護者を支援する家族会を2か月に1回湯河原と真鶴で交互に開催。介護者同士の交流や医療・介護の専門職との情報交換の場として活用している。 ○認知症をにんちしよう会 ・世界アルツハイマー月間に合わせて町のホームページやユーチューブ等にオレンジ色の物を投稿し、認知症に関する普及啓発活動を行った。 ○一市三町若年性認知症を考える会 ・医師、医療機関、行政等で構成されている。フレンドシップカフェの開催。今年度は若年性認知症の方、関係者の方の体験談集作成を行った。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○一市三町若年性認知症を考える会 ・フレンドシップカフェはZOOMを利用し、オンラインでの開催とした。
--

担当課名：介護課	電話：0465-63-2111
	メール：hokenka@town.yugawara.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
愛川町	いつまでも住み慣れた地域で自分らしく

【自治体の情報】

人口（令和３年１０月１日現在）	39,735
65歳以上人口（高齢化率）	12,250（30.8%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	5,622（45.9%）
認知症地域支援推進員の配置	令和・平成27年度から 人数：2 職種：保健師1、事務職1
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：地域包括支援センター
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和・平成 年度から実施（予定） / ■無
ケアパスの作成・活用方法	令和・平成29年度作成 名称：認知症安心ガイド 活用方法：相談時の説明、窓口への配架資料として活用
認知症カフェの開設	令和・平成30年度から開設 カフェ数：2
認知症予防の取組	取組内容：認知症予防教室（コグニサイズプログラム）

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○ サポーター養成講座 自治会や職場、町職員研修等での開催のほか、令和2年度からは県立愛川高等学校でサポーター養成講座を実施している。

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○ 認知症予防カフェでは、対面での開催については見送りとなったが、繋がりを切らさぬよう実施団体に定期的に通信紙を作成、配布された。（認知症予防カフェ通信）
--

担当課名：高齢介護課	電話：046-285-6938
	メール：kourei-kaigo@town.aikawa.kanagawa.jp

市町村名	テーマ
清川村	認知症について村民の誰もが正しい知識を持ち、早期に相談できる体制・地域で支える関係づくり

【自治体の情報】

人口（令和3年10月1日現在）	2,875
65歳以上人口（高齢化率）	1,065（37.0%）
75歳以上人口（高齢者に占める割合）	474（44.5%）
認知症地域支援推進員の配置	平成27年度から 人数：1人 職種：保健師
認知症初期集中支援推進事業の実施状況	チーム数：1チーム 設置場所：地域包括
認知症サポーターステップアップ研修の実施	令和3年度から実施（予定）
ケアパスの作成・活用方法	平成29年度作成 名称：清川村認知症あんしんガイドブック 活用方法：相談初期の説明用に使用
認知症カフェの開設	令和3年度から開設（新型コロナウイルスの影響により令和2年度から実施予定だったが延期となった） カフェ数：1カ所
認知症予防の取組	取組内容：認知機能向上教室（一般介護予防事業）の実施

【（市・町・村）の認知症に係る主な取組（推進員活動含む）】

○社協が支援をしながら、住民主体による住民活動（見守り、お茶飲み、体操、散歩等のサロン活動）を実施しており、サポーター養成講座等も実施している。行政も必要に応じて支援し、関係性を持ちながらサロンの継続・支援の必要な方の早期対応に努めている。 ○独居・高齢者世帯への配食サービスによる地域の見守りの実施 ○75歳以上の独居高齢者の訪問等による把握 ○引きこもり・軽度認知症の方などに対する通所型サービスAの実施 ○認知機能向上教室（一般介護予防事業）の実施 ○徘徊高齢者に対する「おでかけ安心キーホルダー」の配布 ○高齢者等徘徊位置検知システム機器等購入費助成 ○「包括だより」や、村広報紙に認知症の正しい知識を掲載 ○世界アルツハイマー月間の9月に図書館内で、認知症について啓発事業の実施 ○介護家族交流会（認知症の方の家族対象も含む）の実施 ○村主催の認知症カフェの実施

【新型コロナウイルス感染症拡大の中で工夫した特徴的な取組】

○認知機能向上教室（一般介護予防事業）の休止期間中、運動や認知症等についての動画やチラシを講師と作成し、村ホームページへの掲載や参加者へ配布をした。また、参加者に対し、この1年の運動機能・体・気持ち・暮らしぶりなどの変化についてアンケート調査を実施した。 ○介護者交流会を一時休止したため、「交流会だより」を作成し、参加者に配布した。

担当課名：保健福祉課介護保険係	電話：046-288-3861（直通）
	メール：kaigo@town.kiyokawa.kanagawa.jp



3 各保健福祉事務所・センターにおける認知症の取組

神奈川県では、政令指定都市、中核市、保健所政令市等を除く 26 市町村を、8か所の保健福祉事務所・センターが所管し、様々な認知症についての取組を実践しています。（寒川町は茅ヶ崎市保健所が業務を行っています。）

次のページから県の各保健福祉事務所・センター、茅ヶ崎市保健所の取組や今後の取組等を掲載しています。担当課や連絡先も記載してありますので、「もっと知りたい！もっと聞きたい！」場合は、アクセスしてみてください。



保健福祉事務所名
平塚保健福祉事務所 管轄市町村（平塚市、大磯町、二宮町）

【主な取組】

- 精神科医師によるもの忘れ・認知症相談を月 1 回実施
- 管内公共施設にて、認知症に関する展示を実施し、普及啓発を行った。
- 平塚市と協力し、認知症カフェ運営団体の交流会を開催。認知症カフェについて Web で情報発信を行っているフォトジャーナリストを講師とし、コロナ禍における認知症カフェの開催方法や認知症カフェをさらに発展させていくための方法等について、情報交換を行った。
- 今年度中に管内市町の認知症施策担当者会議と管内市町・警察・県高齢福祉課による認知症等行方不明者 SOS ネットワークの担当者会議を開催し、取組内容や現状について情報共有を行い、今後の連携について確認する予定。

【今後の取組】

- 若年性認知症に関する取り組みとして、職域等を対象とした講演会や本人と家族のつどいを開催していきたい。

担当課名：保健予防課	電話：0463-32-0130
	メール：hirahofuku.yobouca270@pref.kanagawa.lg.jp

センター名
平塚保健福祉事務所秦野センター 管轄市町村（秦野市、伊勢原市）

【主な取組】

○認知症初期集中支援チーム会議

市町村支援のため、管轄 2 市の認知症初期集中支援チーム会議に出席。

市や地域包括、地域の医療機関職員等のチーム員と顔がつながり、随時相談を行いやすい関係を築くことが出来ている。また、チーム員会議で、当センターのもの忘れ相談につなぐケースもあり、地域と連携した支援をすすめている。

○物忘れ相談、随時相談

令和 2 年度実績

実施回数	相談実数(名)	相談のべ数(名)
12	24	31

- ・受診が必要かどうかの判別。長谷川式スケールの実施。必要時紹介状発行。
- ・受診拒否があるケースの訪問相談。家族や支援者だけの来所相談。
- ・地域包括や医療機関へのつなぎの支援。

○認知症施策に関わる従事者研修

目的：認知症支援に関わる専門職が専門知識を得る機会を提供するとともに、地域の認知症支援の質が向上し、更に取組が充実していくことを目的とする。

秦野市の「ケアプラン研修」の年 6 回の研修のうち 1 回は認知症に関連した内容を行っており、同時開催としている。

令和 3 年度実施予定

開催日・会場	テーマ・講師等	対象
令和 4 年 1 月 31 日(月) 開始 18:30 終了 20:30 (Zoom によるオンライン研修)	認知症について ～症状よりも「人」を診ること～ 【講師】 東京慈恵会医科大学精神医学講座教授 繁田 雅弘氏 【講演内容】 ・認知症の基本的な知識（種類、特徴的な症状等） ・周辺症状への対処法 ・暴言や暴力のある患者への支援 等	・介護支援専門員 ・地域高齢者支援センター職員 ・サービス事業所

【今後の取組】

○管内 2 市と連携しながら、認知症等行方不明 SOS ネットワーク担当者会議の開催や若年性認知症に対する取り組み等を検討していきたい。

担当課名：保健予防課	電話：0463-82-1428
	メール： hadahofuku.1586.yobou@pref.kanagawa.lg.jp

保健福祉事務所名
鎌倉保健福祉事務所 管轄市町村（鎌倉市、逗子市、葉山町）

【主な取組】 ・市町との認知症施策市町村担当者会議を行い、管内市町の取り組み状況や情報共有を実施し、認知症対策事業の推進を図っています。 ・令和元年度は、認知症について正しい理解をして支援できるようサポーター養成講座や、認知症予防のコグニサイズの研修会、介護職対象の研修会を実施しました。 ・令和２年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため、サポーター養成講座や支援者向けの研修会の開催は実施できませんでした。 【今後の取組】 ・市町との連携強化を図り、市町とともに認知症対策事業の推進を図ります。 ・高齢者虐待や若年性認知症等、支援者対象にした研修会の充実を目指します。

担当課名：保健予防課	電話：0467-24-3900
	メール：kamahofuku.1578.yobou@pref.kanagawa.lg.jp

センター名
鎌倉保健福祉事務所三崎センター 管轄市町村（三浦市）

【主な取組】 ・三崎センターは、市が主催する「SOS ネットワーク担当者会議」を共催することにより市を支援した。市及び警察署（生活安全課）、県高齢福祉課と取組状況や現状等について、情報共有した。警察署が保護した認知症の方の協力施設が市内に無いとの課題があった。 ・また、家族会が主催する「三浦のつどい」（家族の交流会や講演会）に参加。市民等に対して認知症の理解を深めることができ、家族会や地域包括、市との連携も図れた。 【今後の取り組み】 ・県が取り組むべき若年性認知症について、対象者の把握が難しいという課題がある。そのため、管内認知症施策担当者会議を開催する予定。久里浜医療センターに所属する若年性認知症コーディネーターから、若年性認知症の現状や課題の情報共有等をする予定。
--

担当課名：保健予防課	電話：046-882-6811
	メール：misakihwc.1585.yobou@pref.kanagawa.lg.jp

保健福祉事務所名
小田原保健福祉事務所 管轄市町村（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町）

【主な取組】

- ・認知症家族会を「小田原・箱根家族会」、「真鶴・湯河原家族会」2か所で開催。当事者と家族の参加も増えてきている。参加者からの体験談や専門家からの助言を受け、「来てよかった」の声も聞かれている。
- ・「小田原・箱根・真鶴・湯河原の一市三町若年性認知症を考える会」主催で、zoom によるフレンドシップカフェ年に3回開催予定。6月、11月に開催し3月予定。

【今後の取組】

- ・管内市町村、管轄警察署による SOS ネットワークの担当者会議を令和4年1月に開催し、ネットワークシステムの現状について状況を共有予定。
- ・管内市町村の認知症担当者会議を令和4年1月開催し、現状と課題を共有予定。

担当課名：保健予防課	電話：0465-32-8000
	メール：ohofuku.1582.yobou@pref.kanagawa.lg.jp

小田原保健福祉事務所足柄上センター 管轄市町村（南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町）
--

【主な取組】

- ・住民や支援者を対象としもの忘れ・認知症の定例相談を月1回（年11回）実施している。
- ・後期学生実習合同オリエンテーションにて、学生を対象とし、サポーター養成講座（コグニサイズを含む）を実施した。「若年性認知症や認知症の方や家族、高齢者との接し方が今後の看護実習や生活に生かせると思った。」といった感想が聞かれた。
- ・アルツハイマー月間に認知症の理解を深めるため足柄上合同庁舎1F エントランスホールにてポスターを掲示した。
- ・管内市町村、警察による SOS ネットワークでは、ネットワークの運用についてヒアリングを行い要項の改定に取り組んでいる。

【今後の取組】・コロナの状況に応じて担当者会議を開催していく。

担当課名：保健予防課	電話：0465-83-5111
	メール： hokenyobou.1589.ashikami@pref.kanagawa.lg.jp

保健福祉事務所名	
厚木保健福祉事務所	管轄市町村（厚木市、海老名市、座間市、愛川町、清川村）

【主な取組】 ・精神科医師による精神保健相談（もの忘れ・認知症相談含む）を実施している。 ・市町村単位の推進員や介護保険関係職員等支援者を対象とした、認知症と高齢者の精神疾患に関する研修会の開催を予定している。 ・管内市町村、警察、保護協力施設に出席いただき、認知症等行方不明 SOS ネットワークの担当者会議を開催し、ネットワークの取組内容や現状について情報共有を行った。認知症施策担当者に対して各市町村の課題等について把握するアンケートを行った。 【今後の取組】 ・令和元年度まで数年間開催してきた若年性認知症に関する研修は参加者から好評だった。若年性認知症に関する普及啓発事業及び支援事業を今後も継続的に開催していく予定である。

担当課名：保健予防課	電話：046-224-1111
	メール： atsugihwc.1587.yobouka@pref.kanagawa.lg.jp

センター名
厚木保健福祉事務所大和センター 管轄市町村（大和市、綾瀬市）

【主な取組】 ・月1回程度、精神科専門医による認知症相談を実施（来所又は訪問）。ご家族や地域包括等の関係機関から、処遇困難な対象への相談に対応した。今後も継続していきたい。 ・認知症等行方不明 SOS ネットワークに基づき、捜索依頼、解除の実施。 【今後の取組】 ・管内市町村、地域包括、警察による認知症担当者連絡調整会議を開催し、今年度の取組内容や現状、課題、次年度の方向性について、情報共有する。 ・支援者向けの若年性認知症研修を例年実施してきた。昨年度より新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止していたが、状況を見ながら企画したい。
--

担当課名：保健予防課	電話：046-261-2948
	メール： yamahofuku.1588.yobo@pref.kanagawa.lg.jp

保健福祉事務所名
茅ヶ崎市保健所 管轄市町村（茅ヶ崎市、寒川町）

【主な取組】 ・若年性認知症本人ミーティングを毎月 1 回開催している。当事者同士の交流、当事者としての思いや希望を共有する場となっている。 ・自主グループとなった「若年性認知症のつどい うみの会」の定例会を共催し、当事者家族同士が安心して情報交換できる場の確保を支援すると共に、グループ運営の支援と育成、新たな当事者や地域支援者をグループに繋ぐ役割を担っている。 ・認知症疾患医療センターと共催で、地域で若年性認知症当事者が活動するための支援をテーマに、地域の当事者を招き、オンライン研修会を開催した。 【今後の取組】 ・当事者の視点に立った支援と、地域連携、人材育成を進めていく。
--

担当課名：保健予防課	電話：0467-38-3315
	メール：hokenjyo_hokenyobou@city.chigasaki.kanagawa.jp



4 認知症地域支援推進員研修及び県内配置状況

研修の目的：認知症の人が住み慣れた地域で生活を継続するためには、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援を行うことが重要である。

各市町村における認知症の人への支援体制を構築していくための担い手となる「認知症地域支援推進員」は、自らの市町村における支援員としての役割や具体的な活動を考え、また、設置する市町村や保健福祉事務所は、「認知症地域支援推進員」に対する支援のあり方を考える機会とする。

令和元年度からは、経験に応じた内容とするため、新任者・現任者に分けて研修を実施している。

1 研修内容・プログラム

○新任者研修

令和3年12月20日(月) Zoom 開催

時間	内容及び講師
9:30～11:00	○講義 「国の認知症施策の現状と方向性、推進員の位置づけと役割の理解」 認知症介護研究・研修東京センター 花田健二氏 「神奈川県認知症施策について」県高齢福祉課
11:00～11:30	○インタビュー 「若年性認知症についての理解と支援」かながわオレンジ大使、川崎市若年性認知症支援コーディネーター 渡辺典子氏
11:30～12:00	○グループワーク①
13:00～14:00	○事例発表 おれんじカフェ逗子 赤松伸子氏 大和市健康福祉部人生100年推進課 青木裕子氏
14:10～15:30	○グループワーク②
15:40～16:30	発表
16:30～16:50	講評

○現任者研修

令和4年2月下旬開催予定 Zoom 開催

2 推進員配置状況（累計）

区分	H24年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
配置市町村数	2	3	5	25	22	31	33	33	33	33
配置人数	2	3	5	37	66	108	126	131	146	189

※配置状況は各年度4月現在の数値

認知症のあれこれ



お電話ください



認知症全般に関することや介護の悩みなどを、
介護の経験者を中心としたスタッフがご相談に応じます。
ご家族等を介護しているケアラーの皆様もお気軽にご相談ください。

かながわ認知症コールセンター

公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部

0570-0-78674 (なやむことなし)

月・水曜 10:00～20:00 土曜 10:00～16:00 (年末年始を除く)

よこはま認知症コールセンター

公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部

045-662-7833 (なやみさよなら)

火・木・金曜 10:00～16:00 (年末年始を除く)

川崎市認知症コールセンター「サポートほっと」

NPO法人 川崎市認知症ピアサポートセンター

0570-0-40104 (ほっとよ)

月・火・木・金曜及び第1・第3日曜 10:00～16:00 第2・第4木曜 10:00～20:00 (祝日、年末年始を除く)



介護経験者が
お聞きします



お住まいの地域にも
相談窓口があります

地域包括支援センター

市区町村の高齢福祉主管課や保健福祉事務所
保健所までどうぞ。

詳しくは

[かながわ認知症ポータル](#)

検索

神奈川県内の認知症疾患医療センター

専門スタッフがお聞きします

<神奈川県 認知症疾患医療センター>

① 東海大学医学部附属病院 総合相談室

伊勢原市下糟屋143

0463-93-1121 (代表)

月～金曜 9:00～15:00

第1・3・5土曜 9:00～12:00

(祝日、11月1日、年末年始を除く)

② 国立病院機構 久里浜医療センター 医療福祉相談室

横須賀市野比5-3-1

046-848-1550 (代表)

月～金曜 8:30～17:15

(祝日、年末年始を除く)

③ 曽我病院 福祉医療相談室

小田原市曽我岸148

0465-42-1630 (代表)

月～金曜 9:00～17:00

(祝日、年末年始を除く)

④ 湘南東部総合病院 医療社会サービス部

茅ヶ崎市西久保500

0467-83-9111 (代表)

0467-83-9091 (直通)

月～土曜 9:00～17:00

(祝日、年末年始を除く)

⑤ 厚木佐藤病院 医療サービス課

厚木市小野759

046-247-1211 (代表)

046-258-6663 (直通)

月・火・木・金・土曜 9:30～16:00

(祝日、年末年始を除く)

<横浜市 認知症疾患医療センター>

⑥ 横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター

横浜市金沢区福浦3-9

045-787-2852 (直通)

月～金曜 9:00～17:00

(祝日、年末年始を除く)

⑦ 済生会横浜市東部病院 療養福祉相談室

横浜市鶴見区下末吉3-6-1

045-576-3000 (代表)

月～金曜 9:00～17:00

(祝日、年末年始を除く)

⑧ 横浜舞岡病院 医療相談室

横浜市戸塚区舞岡町3482

045-822-2169 (直通)

月～土曜 9:00～17:00

(祝日、年末年始を除く)

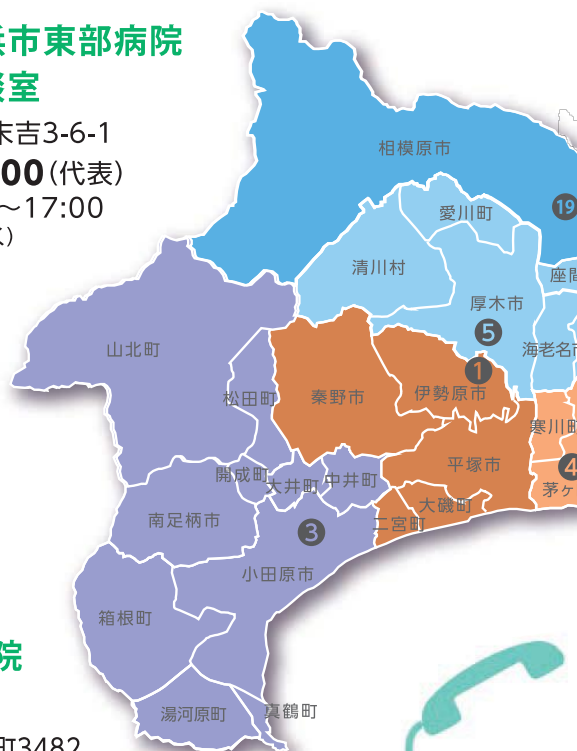
⑨ 横浜市総合保健医療センター 診療所 総合相談室

横浜市港北区鳥山町1735

045-475-0103 (直通)

月～金曜 8:45～17:30

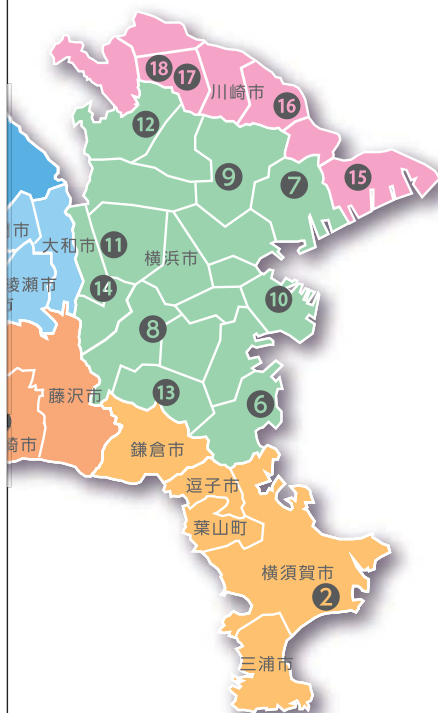
(祝日、年末年始を除く)



ひとりで悩まず
お電話くだ



治療の内容や医療に関する情報などについての「専門医療相談窓口」です。
患者さんご自身、ご家族、医師、保健医療・福祉関係者などを対象に、
専門スタッフが電話や面接によるご相談に応じています。



**⑩ 横浜市立みなと赤十字病院
認知症疾患医療センター**

横浜市中区新山下3-12-1
045-628-6761 (直通)
月～金曜 9:00～16:00
(祝日、年末年始を除く)

**⑪ 横浜ほうゆう病院
地域医療連携室**

横浜市旭区金が谷644-1
045-360-8787 (代表)
月～土曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

**⑫ 横浜総合病院
地域医療総合支援センター**

横浜市青葉区鉄町2201-5
045-903-7106 (直通)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

**⑬ 横浜栄共済病院
患者サポートセンター**

横浜市栄区桂町132
045-891-2171 (代表)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

**⑭ 横浜相原病院
認知症疾患医療センター**

横浜市瀬谷区阿久和南2-3-12
045-489-7600 (直通)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

<川崎市 認知症疾患医療センター>

**⑮ 川崎市立川崎病院
認知症疾患医療センター**

川崎市川崎区新川通12-1
044-233-5521 (代表)
月～金曜 8:30～17:00
(祝日、年末年始を除く)

**⑯ 日本医科大学武蔵小杉病院
街ぐるみ認知症相談センター**

川崎市中原区小杉町1-383
044-733-2007 (直通)
月～金曜 9:00～16:00
(祝日、年末年始を除く)

**⑰ 聖マリアンナ医科大学病院
認知症(老年精神疾患)治療
研究センター**

川崎市宮前区菅生2-16-1
044-977-6467 (直通)
月～金曜 9:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)

**⑱ かわさき記念病院
認知症疾患医療センター**

川崎市宮前区潮見台20-1
044-977-3100 (代表)
月～金曜 9:00～17:00
(祝日、年末年始を除く)

<相模原市 認知症疾患医療センター>

**⑲ 北里大学病院
トータルサポートセンター**

相模原市南区北里1-15-1
042-778-8229 (直通)
月～金曜 9:30～16:30
(祝日、年末年始を除く)

65歳未満の方のご相談はこちらへ

若年性認知症支援コーディネーター

認知症は65歳未満の若い人が発症することもあり、それを「若年性認知症」といいます。
若年性認知症支援コーディネーターは県内5カ所に配置されており、
受診のことから就労継続、福祉サービスの利用支援など、
患者さんやご家族からのご相談の受付や、支援に携わるネットワークの調整などを行っています。

●国立病院機構 久里浜医療センター

046-848-1550 (代表)
月～金曜 8:30～17:15 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア: 横須賀・三浦

●曾我病院 (福祉医療相談室)

0465-42-1630 (代表)
月～金曜 9:00～17:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア: 相模原、湘南西部、県西

●横浜市総合保健医療センター診療所 (総合相談室)

045-475-0105 (直通)
月～金曜 9:00～16:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア: 横浜

●川崎市若年性認知症サポートデスク NPO法人 マイWay

044-400-7060 (直通)
月～金曜 9:00～16:00 (祝日、年末年始を除く)
担当エリア: 川崎

若年性認知症コールセンター

厚生労働省が認知症介護研究・研修大府センター
に委託して、若年性認知症に関するご相談を受け
付けています。

0800-100-2707
月～土曜 10:00～15:00 (祝日、年末年始を除く)

認知症の人とご家族をみんなで支えるマークです

神奈川県では、認知症施策の普及啓発を推進するため、
認知症の人、家族などの意見を踏まえて、
独自に「認知症の人と家族を支えるマーク」を作成し、
市町村・団体等と協力して、このマークを活用した取り組みを行っています。

- 全体の形は認知症の頭文字「N」をデフォルメしました。ハートは温かな心づかいを表しています。
- デザインには、記憶が欠けてしまうことで、認知症の方が感じる不安や疎外感を埋める、パズルのピースになれるようにとの想いが込められています。



神奈川県

神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 高齢福祉課
横浜市中区日本大通1 TEL045-210-4846 (直通)



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society